



## 第 20 号

志部 淳之介  
KCCN 事務局  
弁護士

「エシカル・コンシューマー」という言葉をご存じでしょうか。

### 1 エシカル・コンシューマーって何？

2015年（平成27年）6月27日、京都リサーチパークで「消費者問題シンポジウム in 京都ーエシカル・コンシューマーへの道ー」が開催されました。

皆さんは、エシカル・コンシューマーという言葉をご存じでしょうか。「エシカル」というのは、単純に訳すと倫理的、道徳的と意味です。コンシューマーは消費者という意味ですね。ただし、エシカル・コンシューマーという言葉は、これらの訳語とは少し意味が異なり、商品やサービスの消費行動について、価格の安さや自分にとって良いものとの基準だけでなく、地球環境や社会貢献につながるような消費活動をする、そのような消費行動をとることのできる消費者を指すものとされています。

そう言うと何やら難しく聞こえますが、我々は、日常生活の中で、知らないうちにこの消費行動をとっています。例えば、オーガニック（有機栽培）商品を購入する、エネルギーを節約する、再生商品利用などエコを重視した消費生活をする、地産地消を心がける、不正な企業の商品は購入しない、フェアトレード（公正な貿易）商品を購入する、などがこうした行動に当たります。

### 2 フェア・トレード商品って何？

ここで、「フェアトレード」という言葉について、少し説明しておきます。フェアトレードとは、立場の弱い発展途上国の生産者や労働者を守るため、原料や製品を適正な価格で購入する貿易のしくみのことをいいます。製品の生産にはどうしてもコストがかかります。本来は、そのコストに見合った価格で取引が行われるべきなのですが、力関係に差がある場合には、それがなかなか実現されません。フェアトレード商品は、通常の商品より価格が割高になることがあります。けれども、フェアトレード商品を購入するということは、生産者の人権や文化を守り、環境保護にもつながっていくのです。日本でも、森永のチョコレートなどがフェアトレード製品として販売されています。

大切なのは、こうしたフェアトレード商品の意味を理解したうえで、購入するということです。通常のチョコレートとやや割高のフェアトレードチョコレート、2つが並んでいた場合に、どちらを選択するかは消費者の自由です。シンポジウムでも、登壇者は決してフェアトレード商品を買いたまおうとは言いませんでした。自分で選択するということが重要だか

らです。その選択を自覚的にできる消費者、それがまさにエシカル・コンシューマーというわけです。

### 3 学生さんらの取組み

シンポジウムでは、京都大学の学生サークル「まなびやハチドリ」さんの活動が紹介されました。代表の梶原さんのお話によると、同サークルは、フェアトレード商品の販売会を行ったり、フェアトレード商品を扱うカフェを開催したり、学外でのフェアトレード商品紹介イベント等に協力したり、それらの活動を紹介するフリーペーパーを作成し配布するなど、実に積極的に活動されています。



この他、お茶の水大学附属高等学校の2年生の学生さんが作成したリーフレットが紹介されました。「エシカルって何だろう？」というタイトルのリーフレットをめくると、モノクロの小さな子どもがカメラに向かって正対する写真が目を引きまします。そこには「世界の子ども9人に1人」という文字が印字されていて、その下には、『危険で有害な労働』『義務教育を妨げる労働』をしている子供たちの割合です。』という言葉が続きます。このリーフレットは、寄付等を求めています。その代わりに、ひとりひとりが、フェアトレード製品を購入することで、子供たちの置かれた環境が改善されていくということが紹介されています。

### 4 「どうしたら騙されないか」という消費者教育から、「どうすれば、社会に貢献できるか」という消費者教育へ

これまでは、消費者教育というと、詐欺業者に騙されない知識を身につけましょう、というように「被害に遭わないこと」を第一の目標とした消費者教育が中心でした。その流れが今、変わろうとしています。平成24年12月13日に、「消費者教育の推進に関する法律」が施行されました。この法律では、従来の「どうしたら騙されないか」という教育から、「どうすれば社会に貢献できるか」という教育へシフトしていくことが打ち出されました。また、先に紹介した学生さんらのように、エシカル・コンシューマーという考え方を広めようとする動きが京都府下の各大学でも起っています。

私は、このシンポジウムで、学生さんらの若い力に感銘を受けました。我々弁護士よりもよほど発信力があるのではないのでしょうか。自分が学生の時はこの活動ができたかなと思えば返すと恥ずかしい限りです。

我々弁護士も、日常生活の中では消費者です。フェアトレード商品を目の前にしたとき、自分の消費行動が社会にどのような影響を与えるのか、それを自覚したうえで商品を選びたいと思いました。日常の中で、自覚をもって「選択」をしていくこと、それがエシカル・コンシューマーへの道なのでしょう。

(2015年8月)